

## 製造指示書等の書類管理に 書類電子化ツールを導入

電子化した受発注書類・図面を  
探す時間を大幅に短縮できた

連絡事項の見落としや、  
引き継ぎ漏れがなくなった



書類電子化ツールの導入で情報検索と活用効率が格段にアップ

### 従来の課題

- ・ 製造指示書等が紙で管理されており、業務の引き継ぎが煩雑だった
- ・ 見積の際に製造指示書を探す手間と時間がかかっていた

当社は精密金属加工部品等の製造を行っており、図面、製造指示書等の書類は紙で管理していました。製造指示書には作業結果も記入しており、製造委託先への発注管理も製造指示書を使っていますが、平均して月100~130件程度の指示書が動いています。進行している案件の指示書はラックに掲示して共有していましたが、それが常時20件程度ありました。そこに担当者間の申し送りが記入された付箋紙が貼付されるなど業務の引き継ぎが煩雑で、連絡事項の見落としやフォロー漏れが発生していました。

また、ラックの配架スペースの制約もあり、書類が重なって配架されてしまうなど、書類を探すのに手間と時間を要していました。過去の受発注情報も全て紙書類で保管していたため保管庫を圧迫しており問題となっていました。

### 取組概要

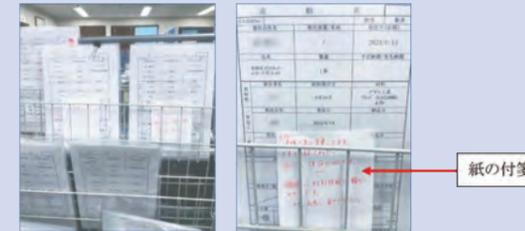
- ・ 投資対効果を念頭に、まずは使い勝手のいい書類電子化ツールの導入からスタート

川崎市産業振興財団から紹介された専門家に相談したところ、中長期的に会社にとって最適なデジタル化を進めるところからアドバイスを受けました。

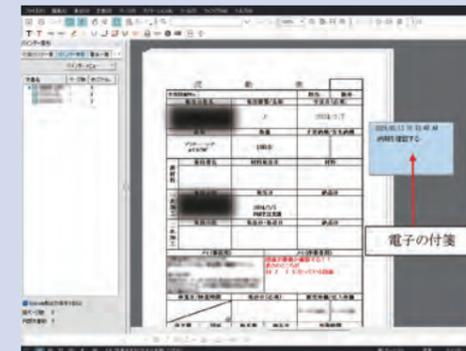
当初は受注管理・生産管理システムの導入も検討しましたが、投資対効果と運用までのハードルを考え、書類電子化ツールの「DocuWorks」を導入しました。

このソフトウェアは、紙で管理しているときと同じ感覚で、デスクトップ上で電子書類を扱うことができ、直感的かつ手軽に整理ができる便利さが評価されています。

ファイルの名称付けのルールや運用方法などは現場担当者と相談しながら検討していきました。



(導入前) ラックに配架した紙書類による管理



(導入後) デスクトップ上で電子書類を管理

### 実施効果

書類電子化ツールの導入により、これまでネックとなっていた書類を探す時間を大幅に短縮できました。紙から電子データ化したファイルには顧客名や品名、型番などの属性情報を加筆できるため、データの検索に役立っています。検索結果には図面と併せて関連書類も表示されるので、データ活用と効率化が格段に進みました。

また、申し送り事項を電子文書に電子付箋データとして加筆し、作業の進捗状況ごとに電子トレイを分けて整理することで、工程の進捗度が一目でわかるようになり、事務担当者間の連絡事項の見落とし、引き継ぎ漏れもなくなりました。

加えて、見積書データと見積根拠となる図面情報を同じフォルダに蓄積することで、似た製品の受注時に過去の事例を参照することができ、見積の作成業務も効率化が進んでおり、複雑なものでなければ誰もが見積を作成できるようになりました。

今回の取組を通じて、社内全体でデジタル化への理解が進み、本来想定していた使い方以外にも活用できる分野がないか、従業員自らが探すようになり、便利なツールを活用してより合理化を進めようという機運が高まっています。

#### 書類電子化ツール導入による効果

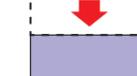
書類検索の削減時間

導入前比 約50%削減

50%DOWN

引き継ぎ漏れ件数

導入後 0件



### 成功の決め手・秘訣

過去の業務で図面の作図経験のある社員が事務担当でもあり、図面の意味をよく理解していることから、電子化された図面データにどのような情報を加筆していったら良いか判断できたこと。

### 社員の声

書類電子化ツールと一緒にマルチモニターを導入したことで、DocuWorksの情報と経理システムを同時に相互参照できるようになるなど、経理システムへの入力作業が格段に楽になりました。

### 今後の展開

作業ステータスごとに分けた電子トレイを使うことで作業状況を一目で確認できるようになりました。今後、電子トレイを社外からでも確認できるようにしていくことで在宅勤務も可能になり、さらに働き方改革を進める糸口となると考えられます。

また、30年分の紙の図面の蓄積があるので、過去の書類をスキャンして、データとして活用していくことも今後の課題です。データを蓄積することにより、次のフェーズで経営層の後継人材の育成にも役立てることができると考えています。

#### 導入のポイント

デジタル化に当たっては、費用対効果や導入へのハードルなども考慮し、自社の規模感や課題、リソースに応じて無理なくシステムなどを導入していくことが大事だと考えています。既存のパッケージソフトウェアの導入なども併せて検討し、初めはそれらを活用しながら、中長期的に会社のデジタル化をステップアップさせていくのも一つの方法です。

また、デジタル化が進んでいない会社も多いため、各社の課題感を自分達で抽出し、どの課題にどのようなデジタルツールを導入すれば、どのくらい効率が上がるかといった、参考となるような情報を共有していくことも重要だと考えております。



代表取締役 板橋 忠彦



<https://bba1993.com/>